

令和7年度小平市立小平第二中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

思考・判断・表現等についての正答率は全国平均より 3.4 ポイント高く、特に「書くこと」については 4.2 ポイント高かった。一方で、知識・技能についての正答率は、全国平均を 0.4 ポイント下回った。また、小説における人物像の読み取り部分も全国平均を下回った。

課題

言葉の特徴や使い方に関する事項の漢字や語彙の問いについて正答率が低かった。基本的な語句の知識を定着させる指導が必要である。また、小説の読み取りにおいても人物像の設定など基本的なことを丁寧に指導していくことが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

これまで単元内の語句について授業中に詳しく触れず個人で学習するものとしていたが、年度後半では意味調べ等の時間を確保し丁寧に指導していく。また、小テストを行うことで単元の新出漢字や受験のための漢字の知識定着を図っていく。

小説の指導については、人物像、物語の設定、情景、人物の心情などを読み取る力を向上させることができるワークシートを準備するなどして、基礎・基本の徹底を図る。

【数学】

状況の分析

思考・判断・表現等についての正答率は全国平均より 3.7 ポイント高く、特に「式の説明」については約 10 ポイント高かった。一方で、関数の増加量についての正答率は、全国平均を 5.7 ポイント下回った。また、式の証明や平行四辺形の証明は全国平均を上回った。

課題

計算や式の証明や図形の証明など時間をかけて仕組みを理解できたところの結果は正答率として結果が出ているが、関数など理解に時間がかかるところにさらに時間をかけて丁寧に指導する必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

法則や定理など決まったことを生かせる工夫をさらにすることにより伸ばし、関数などにおいては3年間かけてじっくり取り組めるよう3年間の授業計画を工夫する。全体として最上位の満点が少ないがそれに次ぐ結果が多いことと最下位の結果である人が少ないことから、各自の実態に合わせてそれぞれがさらに伸びるよう教材を吟味し、工夫していく。

【理科】**状況の分析****課題**

「短答式」の無回答率が約 2 ポイント、「記述式」の無回答率が約 5 ポイント低かった。「問題解決のための課題設定」の正答率が全国平均を約 13 ポイント上回ったが、「元素記号の記述」の正答率は全国平均を約 11 ポイント下回った。

「元素記号の記述」などの知識及び技能を問う問題の正答率が全国平均を大きく下回っていた。また、知識及び技能を活用する問題でも正答率が低い傾向が見られた。今後、基礎的な知識及び技能を定着させていく指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

- 『eboard（イーボード）』や副教材付属の『さくさくスタディ』などの生徒学習用アプリを活用し、積極的な家庭学習を促し、繰り返し学習内容に触れさせ、学習が定着するように指導する。
- 3年間の学習内容の復習ができる副教材から、月2回程度の頻度で小テストを行い、知識及び技能の定着を図る。

【質問紙】**状況の分析****課題**

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問の「当てはまる」の回答率が都平均を約 10 ポイント上回った。「読書は好きですか」の質問の「当てはまる」の回答率が全国・都平均を約 13 ポイント上回った。「自分には、よいところがあると思いますか」の質問の「当てはまる」の回答率が都平均を約 11 ポイント下回った。

「自分には、よいところがあると思いますか」や「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」などの、自己肯定感や心の安定に関する質問事項で肯定的回答が低いことがわかった。一人一人に役割を与え、お互いの行動を認め合い、生徒の自己肯定感を高める指導・工夫を実践する必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- 学級活動、生徒会活動、学校行事及び各教科の授業を通して、生徒の主体的な活動を促進し、さらに生徒が活躍できる場면을積極的に設定する。
- 生徒の活躍を教員が褒め、伸ばしていくことからさらに生徒同士が互いを認め合い、高め合える集団を育成していく。
- 教員が生徒に寄り添い、日頃から適切に声かけしていくことで、教員と生徒の信頼関係を築き、生徒が困りごとや不安がある時に教員に相談しやすい環境を作っていく。